



コタンメール 45号

平成 21 年 8 月 1 日 発行



アイヌイタカニ ネコン アイェ？（アイヌ語で何ていう？）

今年度初めてのアイヌ語教室が7月31日に開かれました。下は3歳半から、小学生、中学生までの子供たちが、おばあちゃんやお母さんと一緒に参加しました。

この日のテーマは「どうぶつの名前」です。楠本克子氏を講師に、動物の写真をみながら、「カパッチリ（オオワシ）」「キムンカムイ（ヒグマ）」「トゥスニンケ（エゾリス）」など、15種の動物名をアイヌ語で覚えました。つづいて、数人のグループに分かれ、動物の写真カードとアイヌ語名カードを使って、ゲームを楽しみました。担い手事業の研修生や、学芸員も参加して、子供たちといっしょにゲームをしました。はじめは戸惑っていた子供たちも、ゲームに熱中しはじめると大人を圧倒し、全てのグループで、みごとに子供が勝者となりました。

最後に、「コタンコロカムイ（シマフクロウ）」のお話を描いたデジタル絵本を鑑賞し、動物たちが、人々の暮らしを守る神さまであるという考えを学んで教室を終えました。子供たちは、次回は旭山動物園に行き、実際に動物を見ながら今回学んだことを確認します。

（きたはら じろうた）



イパカシヌクルウタラ アリキキ！（先生たちががんばる！）

毎夏の恒例となった、小中学校の先生たちのアイヌ文化研修が今年も行われました。

7月28日から30日にかけて、町内外の先生たちが、博物館の中や、隣接するチセの中で、アイヌについて学んだり、討論したりしました。アイヌ史やアイヌ語などの座学に加え、今年は新たに火起こしの体験学習が行われました。

最終日は、平取町と千歳市の小学校でアイヌ文化学習を实践した小林英昭先生・佐々木博司先生を講師に招きました。両先生とも、実体験をもとに、学習を实施するさいの難しさやそれをどのように乗り越えるかということをお話くださいました。おなじ“先生”という立場からの話に、共感した先生も多かったようです。研修の終了後も、熱心に話を聞く先生の姿がありました。

（きたはら じろうた）



パッタキ リムセ！（パッタの踊り！）

今年は、アイヌ民族の芸能がユネスコ世界文化遺産に登録されることが見込まれており、当館でもこれにちなんだ事業をいくつか企画しています。その1つとして、各地のアイヌ民族有志による芸能の復元に取り組み始めました。

アイヌの芸能は、1984年に無形民俗文化財に指定されたことを機に、各地で保存団体が設立されるなど、組織だった伝承活動が行われてきましたが、中でも徐々に上演されなくなってきた演目もあります。そこで、映像や録音資料の中に記録されながら、現在ではあまり見られない演目を復元・再構成してみようというのが今回の試みです。7月25日、26日の2日間、川沿生活館を会場に、道内外から集まったメンバー14名が練習に取り組みました。映像を見ながら、「タプカラ」と呼ばれる男性が力強く足を踏みしめる踊りの動きをまなびました。また、剣や弓を持った踊りも、現代とはかなり動きが異なるものがあり、これにも取り組みました。練習の合い間には十勝地方の「パッタキリムセ（パッタの踊り）」なども楽しみ、交流を深めました。

また、28日、29日には、担い手事業の一環として、「帯広カムイトウウポポ保存会」会長の酒井奈々子さんと会員の川田美奈さんを招き、十勝地方の踊りを集中的に教えていただきました。ここでも、参加者の希望によってパッタキリムセの練習をし、熱心な指導によって歌と動きを身につけました。これらの成果は10月10日の「しらおいアイヌ文化フェスティバル」（会場：コミュニティセンター）で発表します。
(きたはら じろうた)



メタボックルに聞こう

Q：メタボックルさん、イランカラブテ。おや、ずいぶん小さいスイカですね。

メ：むーん…むーん… クセセクフミ～…。暑いってことをシリセセ…

Q：それに触れるとよけい暑くなるからやめませんか。

メ：クセセク、クセセク、クセセク、クセセク、クセセク、クセセク、クセセク、クセセク、クセ

Q：あー、わかりました。確かに暑いですね。それで何してるんですか。

メ：むーん、こういう時はよくナムカした（冷やした）スイカに限るルウエネ。食べる前にくっついて涼むのも、またピリカ ルウエネ。

Q：せっかく冷やしたのが、あつたまりそうですけど。メタボックルさん、ありがとうございました。イヤイライケレ。



メタボックル：身長 50mm 腹囲？ 出身？ 年齢？

行きつけスポット 居酒屋「オニウシ」